

2022年11月発行



浦添市地域学校協働活動

ボランティアだより 第14号

浦添市教育委員会 社会教育推進課 社会教育協働係



長く続いた暑い夏もようやく去り、この沖縄にもようやく秋らしい風が吹き始めました。コロナも少し落ち着いたかに見えますが、まだまだ感染防止対策に手が抜けない状況です。とはいえ、長らくお休みしていた読み聞かせを再開したり、感染防止対策を行いながら運動会を実施したりと、ゆっくりではありますが日常生活が回復しつつあるのを感じます。今回のボランティアだよりは、そのような中で取り組まれた活動を3件ご紹介します。

放課後学習支援ボランティア 10月17日（月） 神森中学校



神森中学校は、2017年に放課後学習支援を始めました。2019年からはコロナで活動が停止していましたが、今年度6月に活動を再開しました。放課後学習支援は毎週月曜日に行われています。

教室では、学習支援の先生にわからないところを聞いたり、また友達と話し合いながら学習を進めていました。

約1時間の学習が終わるとお楽しみの軽食タイムです。現在は感染防止対策のため持ち帰りになっていますが、「ポーク卵おにぎり」や「スパゲティ」など、校内の台所で地域ボランティアの方4人で手作りしています。終わる時間に間に合わせようと一生懸命作っていました。生徒たちも楽しみにしながら学習に取り組んでいました。



お問い合わせ

浦添市教育委員会 社会教育推進課 社会教育協働係 担当：富山、川畑
電話 098-876-1305（直通） メール soedu@city.urasoe.lg.jp



「しまくとうば創作紙芝居」 10月19日（水） 沢岬小学校

沢岬小学校では、長らくコロナでお休みしていた読み聞かせを、ボランティア「がじまる会」メンバーを中心に 10 月 14 日から再開しました。

また 19 日には、経塚児童センターの宮里館長他職員の皆さんによるしまくとうば創作紙芝居「タンメーとう いーちょーばー」がオンラインで教室に配信されました。



この物語は、経塚児童センターの職員が日頃地域で起きている課題や子どもたちに伝えたい事、地域の方々へ感謝の気持ちを込めて作りました。

畑仕事大好きなタンメー（おじいさん）が、おばあさんのために「いーちょーばー」を採るため鎌を持って出かけたところ不審者と思われてしまうという内容です。人間の思い込みや勘違いから生まれる偏見や差別を現代の社会問題に重ね合わせ「イドラの理論」を用いて作ったそうです。影絵も駆使していて 15 分があつという間に過ぎました。

宮里館長は、「しまくとうばは地域にあるおたからに気づいていける心を育む」「この芝居には終わりが無い。あとはそれぞれが感じたように作ってください」と話していました。



トイレ清掃実習 11月18日（金） 浦西中学校



浦添市当山にある「株式会社てだこ」は、社員教育の一環として浦西中学校に場所提供をお願いし、トイレ掃除実習をしています。トイレ掃除実習は毎週金曜日 8 時から、浦西中学校の生徒も一緒に行っています。

社員の皆さんは役割を分担し、生徒へ指導しながら清掃を行います。生徒たちも限られた短い時間の中、便器を磨き、床を流し、仕上げは雑巾の絞り方を教わりながら床を拭いていました。

生徒からは「家ではやった事がなかったが、きれいになって気持ちよかった」「掃除のプロに色々教えてもらったので、家でもやってみたい」などの感想がありました。先生方からも「地域の方々との交流を持ちよい刺激が得られる」と好評です。

生徒たちが教室に戻った後も、社員の方々は後始末に汗を流していました。

